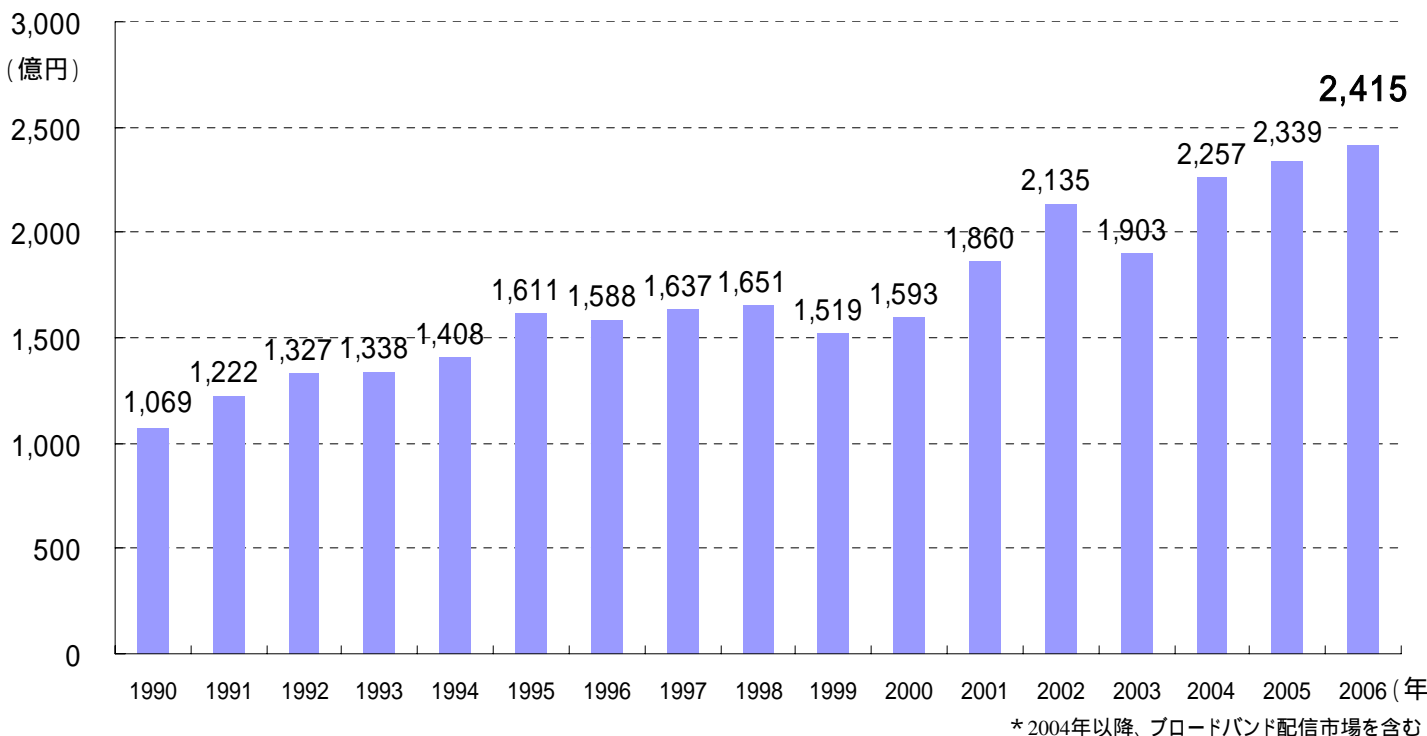




アニメ市場は2400億円台を突破

アニメーション市場規模の推移 < 1990-2006年 >



弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2006年(暦年)のアニメーション市場規模は2415億円で、2004、2005年に続き増加しています。

2006年のアニメ市場を牽引したのは、邦画劇映画作品です。スタジオジブリ作品の新作が公開されたほか、『ポケモン』、『ドラえもん』など例年コンスタントに市場を支える作品に加え、数億円～数十億円規模の興収を収める作品が増加したため市場が底上げされました。一方、洋画は目立ったヒット作が少なく減少に転じています。

2006年は、テレビアニメの放送本数が過去最高となったことも特徴的です。特に深夜帯(23時以降)に放送されるアニメの本数が増加し、年間放送本数の約半数を占めました。これらの作品はDVDの販促として機能する機会が多く市場拡大に貢献していますが、放送本数は2006年夏季をピークに減少傾向にあることも注視すべきです。

2005年に市場を牽引したビデオソフトは、踊り場を迎えています。過去に制作された作品のDVD化が一巡したためストックが少なくなり、新作タイトル数が減少しました。今後は新作の売上を伸ばすことができるかがポイントとなります。衛星・CATVのアニメ専門チャンネルの視聴可能世帯数は引き続き増加傾向にあります。また、新たなウィンドウとして期待されるブロードバンド配信は、額は未だ小さいものの着実に市場を拡大しています。

近年の傾向をみると、アニメ市場の基盤は2000億円前後で安定しつつあり、劇場用ヒット作の有無など個別要因の影響で増減する傾向となっていると考えられます。

< 市場の範囲 >

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、ブロードバンド配信

注) 算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

< 本リリースに関するお問い合わせ >

株式会社メディア開発総研 担当: 戸口、柳川 TEL03-5261-8927 FAX03-5261-8928 e-mail: info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡をお願いします。